

施工計画書記載要領

施工計画書の記載要領

(別紙1)

施工計画書は、工事の基本内容を確認し実施するための重要な図書です。(当初・変更共) 施工計画書は設計内容を十分理解し、現場状況を調査、把握したうえで、下記の事項を参考に作成願います。

なお、完成検査時、事故発生時には施工計画書との整合が確認されますので、くれぐれも適切な施工計画を立ててください。

- (1) 施工計画書の作成は、この要領に準拠して作成すること。
- (2) 用紙規格はA-4縦、横書を原則とし、図面等ある場合は縮尺、寸法を明記し、A-3の折込みで製本すること。
- (3) 提出期間は、契約の後30日以内かつ工事着手前とし、分割提出のときは監督員の承諾をうけること。
- (4) 記載内容
表紙：工事件名、請負会社名印、提出年月日、分冊提出がある場合は分冊番号。
目次：分割提出の項目あるときは、その旨を提出予定時期、分冊番号とともに記載すること。

材料承認は、現場使用材料の承認で施工計画書と同時に提出すること。
宛先、日付、印もれの無いよう注意する。

1. 工事概要 設計図書に定められた事項。
工事名・工期等。
2. 計画工程表 工程表
バーチャートまたはネットワーク(全体ネットワーク及び工程別細目ネットワーク)当初、変更、遅延時の見直し。
3. 現場組織表 (1) 現場組織
下請けを含む現場組織。
現場代理人、主任技術者、施工管理(工程、品質、出来形、写真、副産物)、機械管理(機械、重機)、安全管理(労務安全、交通安全、安全巡視員)、事務労務管理。
なお、酸素欠乏危険作業主任者、その他法令で定める主任技術者、責任者は必ず記入。
(2) 施工体制台帳

4. 指定機械使用計画

指定機械の使用計画

機械名・規格・使用工種・騒音('97)・排出ガス対策型・BH
クレーン仕様等。

仕様 工種	機械名	型式	規格	作業 性能	使用 台数	使用月	備考
						○月	

5. 施工方法

設計工種ごとに現場と整合した具体的な施工方法を明記する。

(1) 山留工

施工断面、種別ごとに、位置、構造、工法、使用機械等を図示説明し、応力計算書をつける。なお、別途山留の特殊工法を採用も同様とする。

(2) 路面覆工

施工場所、構造等を図示説明し、応力計算書をつける。

(3) 土工

掘削場所、工法、運搬、処分方法、埋戻材料、埋戻方法を説明する。土留工について現場状況により 1.5m 未満でも土留めを設置することを記載する。

(4) 築造計画

施工順序と施工管理の方法を説明する。

(5) コンクリート工

型枠の構造、コンクリートの打設区分、打継目位置方法、鉄筋加工等を図示説明する。

ただし、小規模なものは省略することができる。

(6) 杭基礎工

試験杭、本杭の打込方法、順序、使用機械、落下高溶接等につき図示説明。

(7) 推進工

施工場所の図示、土質、地下水の状況等を説明。

ア) 立坑部

山留工の種類と構造、使用機械の説明、応力計算書をつける。

イ) 管渠部

使用管渠の種別、推進装置、油圧機器、支圧壁、刃口等の構造を図示説明。カラー、継手ボルト、連結鋼材の品質形状、裏込注入材の配合、注入方法、使用機器等の図示説明。

なお、長距離推進、特殊推進工法、あるいは立坑を潜函工法、深礎工法等によって築造するときは、その旨、上記に準じて説明すること。

(8) その他

ア) 舗装工

施工位置、種別、構造、面積等を図示説明。

イ) 植栽工

植樹の種類、位置、施工方法、順序等を図示説明。

ウ) 支障物件の防護方法(地上、地下)

既設の支障物件の防護方法を図示説明すること。

エ) その他

その他、特殊工法については、その内容について説明すること。

6. 施工管理計画

(1) 材料

別途、材料承認願いで数量・規格等を仕様書・カタログ・品質証明・有効期限等を確認する(使用する全ての資材)。

(2) 品質管理

県規格基準管理図書を参考に工種ごとに試験項目・回数・箇所を明記する。

(3) 出来形管理

出来形管理箇所・数量を明記する。

(4) 写真管理

写真管理箇所・数量を明記する。

(5) 段階確認

確認項目を明記する。

7. 作業現場安全管理計画

(1) 防護柵・工事看板・迂回案内図・地元へのお願い。

(2) 騒音、振動、地盤沈下、粉塵、危険物、劇物等に対する措置状況。

(3) 仮歩道、残土仮置場、捨場、機械の運用等の状況。

(4) 有資格者名簿並びに免許番号、免許写真の写しを添付すること。

8. 緊急連絡体制

関係各機関緊急連絡先を明記すること。

施工日数と順序

平面図に着色し、着工予定日、完了予定日を記入。

9. 交通管理計画

交通及び一般の保安施設は昼間と夜間に分けて明記する。

工事中における保安施設、保安要員の配置状況。休業中における対策等を図示説明。

特に夜間の第三者安全対策は必ず明記。

(資材搬入・搬出・残土・産廃処分先・迂回・交通制限等)

10. 仮設備計画

構築物、仮設物の施工、完成、維持またはこれに関連する施設装置、現場事務所、安全看板、土場、産廃仮置場等を記載する。

現場事務所、材料置場倉庫等に消火設備の状況を付記する。

仮設工

(1) 電気設備

- 受電容量、受電設備、配線状況、取扱責任者。
- (2) 足場及び栈橋
作業用覆工、栈橋等、重量物を支持するものは構造図のほか、施工法、応力計算書を付ける。
 - (3) 仮締切工、仮排水路
位置、構造、緊急時の撤去方法等を説明し、水理計算書を付ける。
 - (4) 水替工
ポンプの能力、台数、排水処理状況の図示説明。
 - (5) ウェルポイント工
施工位置、土質、地下水の状況を具体的に作成するほか、工法の概要、諸設備、事故防止対策等を説明するとともに、計算書を付ける。
 - (6) 仮道路
位置、構造等を図示説明。
- 1 1 . 事前調査計画
- (1) 地域の環境、土質、地下水の状況、測量的方法
 - (2) 地下埋設物、地上構造物、家屋等の実態調査方法
地元状況・地下埋設物・架空線・道路・排水路・井戸・ゴミ収集日等。
 - (3) 試掘調査の方法
上記に基づいて報告書を作成し、影響及び支障物件の種類、規模を把握のうえ、防護方法を記載する。
- 1 2 . 交通管理計画
- 交通及び一般の保安施設は昼間と夜間に分けて明記する。
工事中における保安施設、保安要員の配置状況。休業中における対策等を図示説明。
特に夜間の第三者安全対策は必ず明記。
(資材搬入・搬出・残土・産廃処分先・迂回・交通制限等)
- 1 3 . 環境配慮
- 宮崎市環境配慮指針における現場の対応。
- 1 4 . 現場作業環境の整備
- 周辺環境対策・手洗い・トイレ・休息場所等。
- 1 5 . 再生資源の利用促進
- 再生資源の利用促進については別表再生資源利用計画書（搬入用、搬出用）を提出すること。また、廃棄物処理計画も同様とする。
資材の再資源化に関する説明書（当初・完了時）。
- 1 6 . その他
- 協議等は文書で行っているか。
発注者・監督員の指示があった場合はこの限りではなく、必要に応じて修正されるものとする。

記録写真撮影要領

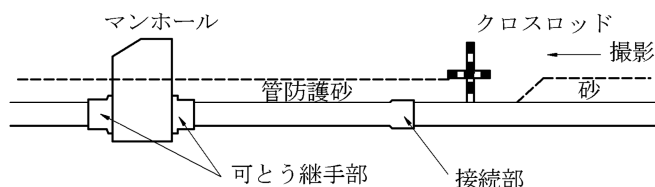
写真管理（状況）

	工種	項目	撮影内容	撮影箇所
一般	着手前 着手後		全景または部分	各路線ごと。 または箇所ごと。
管渠工事	土工	舗装版破碎 (カッター工)	カッター作業 舗装版破碎状況(巾・深さ) (剥ぎ取り・積み込み)	マンホール間の施工延長 40m 未満のものは1箇所。40m以上のものは2箇所。施工延長の短い場合については、担当者と協議。
		掘削	掘削状況(積込み状況含む) (土留が必要な場合は1次掘削、2次掘削が分かるように撮影すること)	
		埋戻し	埋戻し、転圧状況 (20cm 一層ごとにする)	
		土留工	使用部材の形状・寸法 土留設置状況 打込・引抜 支保工設置状況	
		残土	残土搬出状況	
	基礎工	基礎工	設置状況 据付状況 配筋状況	
	布設及び築造工	布設工	布設状況 布設中 布設後	
		築造工	配筋、型枠設置 コンクリート打設状況	
マンホール築造工事	土工		管渠工事参照	マンホール築造の3箇所に1箇所は全工程写真とする。 (n/3+1) 基礎検測及びMH高検測は全箇所とする。
	基礎工		設置状況	
	築造工		型枠設置及び コンクリート打設状況	
付管工事 柵及び取	土工		管渠工と同じ。	柵については、(n/5+1)箇所全工程。 配管、基礎、埋設シートについては全柵とする

	工種	項目	撮影内容	撮影箇所	留意事項
舗装工事			各層別舗装状況 転圧状況	管渠工事と同一。	出来形、品質は「土木工事施工管理基準及び規格値による
付帯工事	付帯工 試掘工		付帯施設等設置状況 試掘状況 地下水位	箇所ごと。 転圧状況は n/5箇所。	
その他	保安全 施設工 ※事前調査		各種保安設置状況 交通整理状況 着手前の家外周囲状況	工事数箇所 家外周囲(外壁等)	

1. 下水道工事は、不可視部が多いので特に撮影時期を逸しないように注意する。

- ・ 上下流のマンホール接続箇所
(特に可とう継手状況：接着塗布、ハンマ施工)
- ・ 管防護砂検測（転圧後、水平方向から撮影）
- ・ 埋戻し（各層ごと、転圧状況、転圧後撮影）
- ・ 仮復旧では、乳剤散布写真
- ・ 試掘後、マンホールの位置変更が生じた場合は、再度着工前写真を撮影



2. 寸法確認写真は、設計値と実測値の2段書とし、測定尺の正確な寸法を表示する。

- ・ 厚み検測等は、カメラの高さに注意すること
3. 撮影箇所の目的は、何かを考え目的をアピールする写真とする。なお、黒板は必ず入れるよう工夫すること。
4. 事前調査は、施工前に家屋所有者に了解を得て、周囲の状況写真を撮影すること。

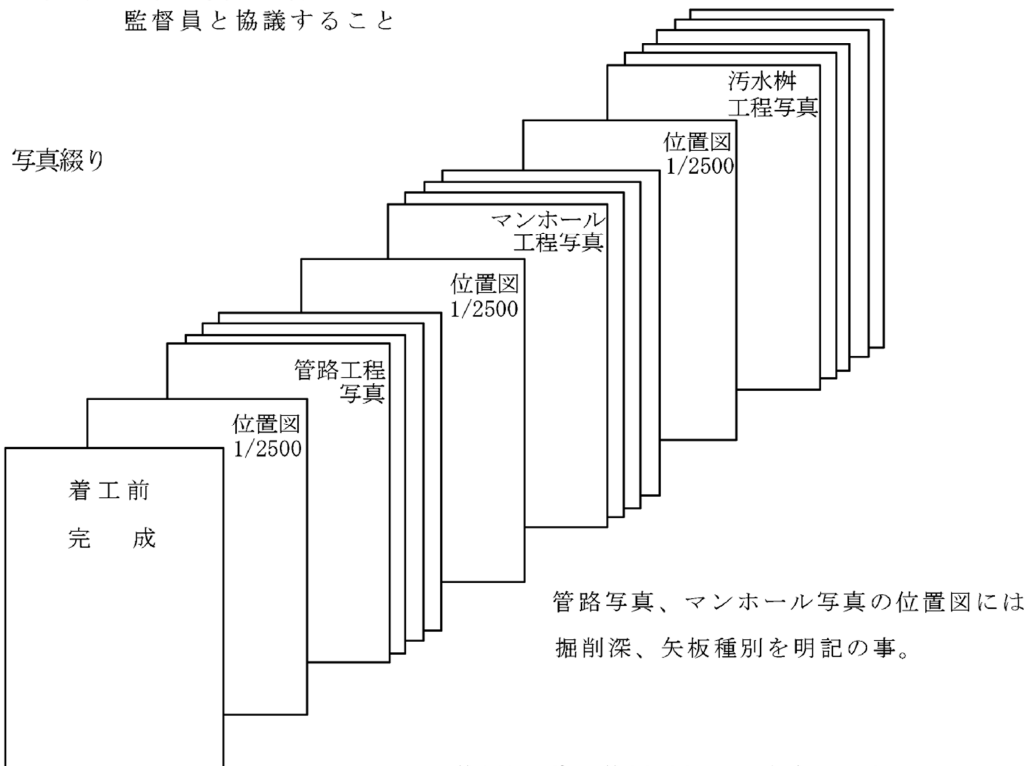
写真管理（出来形）

	項目	撮影内容	撮影箇所	留意事項
管渠工	舗装版破碎	舗装版破碎（幅、厚み）	マンホール間の施工延長 40m 未満のものは 2 箇所。40m 以上のものは 3 箇所。施工延長の短い場合については、担当者と協議。	
	掘削	掘削幅・深さ		
	基礎工	幅・厚み		
	管防護工	幅・厚み		
	埋戻	幅・深さ（下がり）		
	路盤（上層・下層）	幅・深さ（下がり）		
マンホール設置工	舗装版破碎	舗装破碎（幅・厚み）	各マンホール毎に 3 箇所に 1 箇所は全工程写真とする。 $(n/3+1)$ ※基礎検測及び MH 高検測は全箇所とする。	
	掘削	掘削幅・深さ		
	基礎工	幅・厚み		
	MH 設置工	高さ		
	埋戻	深さ（下がり）		
	路盤（上層・下層）	深さ（下がり）		
取付管工事 枺及び	基礎工	幅・厚み	枺については、 $(n/5+1)$ 箇所全工程 ※配管、基礎、埋設シートについては全枺とする。	
	配管	延長		
	埋設シート	延長		
	路盤（上層・下層）	深さ（下がり）		

(その他)

- 1) 塩ビ管施工の場合は、塩ビ管の基礎に木切等を絶対使用してはならない。
- 2) 取付管は、鏡を使って取付管配管状況を確認したあと埋戻すこと。
- 3) BMの確認については、監督員の承認を得ること。特に工区が隣接している場合は、業者間で確認すること。
- 4) 造成地については、計画高と現況高を確認後、施工すること。
- 5) 試掘工については、全箇所撮ること。

※ 状況、出来形、品質の3分冊については
監督員と協議すること



※位置図:施工位置がわかりやすいように1/2500
程度の位置図
:各程度、各工程の位置図として入れる。

ここに、管更生工事の写真管理について、一般的な管理基準をしめす。工法により、項目が異なる場合があるので、撮影計画を作成し監督員と協議を行うこと。

1. 施工状況

工種	撮影内容	撮影箇所	留意事項
着手前 ・完成	全景または部分。上流管口、下流管口より撮影。スパンが長い場合、中間点を加える。 ※TVカメラを使用する場合は、ビデオ記録も撮影。	全路線毎 ※管口仕上げ(本管管口、取付管口)工については、それぞれの工種の巻頭につけること。	工事箇所全景として、地上部の写真も施工箇所がわかるよう撮影し添付すること。
洗浄工	洗浄作業状況	3路線に1箇所撮影を行う。 ($n/3 + 1$)	高圧洗浄車使用状況がわかる状況及びマンホール上部及び管内での作業状況。
調査工	管内状況及び事前調査に必要な項目。 ※TVカメラを使用する場合は、ビデオ記録も撮影。 調査作業状況。	必要な項目は全路線。 調査作業状況は、3路線に1箇所撮影を行う。 ($n/3 + 1$)	必要な項目について、事前処理、協議が必要な場合は詳細に撮影を行うこと。
障害物除去	除去前と除去後。施工状況。 ※管内作業車を使用する場合は、ビデオ記録も撮影。	除去前、除去後は全箇所。 作業状況は、1路線につき ($n/5 + 1$) 箇所	管内作業車を使用する場合は、作業車がわかる状況写真も撮影する。
更生工	更生工にかかる一連の状況を撮影する。	3路線に1箇所、撮影する。 ($n/3 + 1$)	一連の項目については、監督員と協議すること。
本管管口 仕上げ工	管口仕上げ前、仕上げ後。 作業状況写真を撮影する。	管口仕上げ前、仕上げ後は全箇所。 作業状況は3路線に1路線(上下流)撮影を行う。 ($n/3 + 1$) × 2 箇所	状況写真については、管口仕上げ材の配合状況も撮影すること。
取付管口 仕上げ工	管口仕上げ前、仕上げ後。 作業状況写真を撮影する。 ※管内作業車を使用する場合は、ビデオ記録も撮影。	除去前、除去後は全箇所。 作業状況は、1路線につき ($n/5 + 1$) 箇所	管内作業車を使用する場合は、作業車がわかる状況写真も撮影する。
その他	各種保安設置状況や交通整理状況等を撮影する。	工事中適宜	管理計画書に項目を記載すること。

2. 出来形管理

	工種	項目	撮影内容	撮影箇所	留意事項
更生工	更生工	更生延長	更生延長を撮影する。	全路線	
		更生厚み	更生管厚を撮影する。	全路線、上下流管口。人が入れる場合は、中間部について協議する。	測定機器の表示が読み取れるよう注意する。
		更生材料	裏込め材料等数量確認が必要な材料について撮影する。	全路線について各路線ごと。	裏込め材料は、搬入数量と使用数量がわかるようにする。

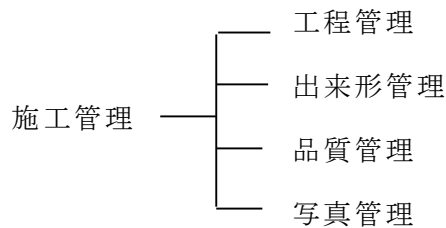
3. 品質管理

	工種	項目	撮影内容	撮影箇所	留意事項
更生工	更生材料	搬入状況 (材料検収)	更生材を、出荷証明書(材料証明書)とそれにかかる材料がわかるよう撮影する。	材料ごとすべて	
		保管状況	品質を保持する保管状況を撮影する。	材料ごとすべて	
		施工中・後	品質検査状況を撮影する。	品質検査を行うもの全て	
	施工	施工管理	管理状況を撮影する。	全路線	

<下水道工事施工管理基準>

施工管理基準については、宮崎県県土整備部の土木工事施工管理基準に準ずる。

(構成)



1) 工程管理

工程管理は、工事内容に応じた方式（2,000万円以上はネットワーク）により作成し、計画工程表により管理する。

2) 出来形管理

出来形管理基準により管理し、設計値と実測値を対比して記録した出来形成果表又は出来形図を作成する。

ただし、測定数が10点未満の場合は出来形成果表のみとし、出来形図の作成は不要とする。

3) 品質管理

品質管理基準により実施し、その管理内容に応じて工程能力図又は品質管理図表（ヒストグラム、 $\bar{X}-R$ 、 $\bar{X}-R_s-R_m$ など）を作成する。

ただし、測定数が10点未満の場合は品質管理表のみとし、管理図の作成の作成は不要とする。

生コンクリート : 圧縮強度試験については、材令7日はJIS表示許可工場とし、材令28日は公共機関で実施する。

鉄筋異型棒鋼 : 1組（3本）の割合で、公共機関で実施する。

県工業試験場は民間委託→宮崎県生コンクリート工業組合共同試験場（24-7025）、建設技術センター及び宮崎県機械技術センターは従来通り。

《 下水道編 》

	番号	工 種	測 定 項 目	規格値(mm)	管理方法	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
					図表	図			
1 ・ 管 渠 工	1-1	管渠基礎工 (砂基礎)	基準高	(± 30)	○	○	マンホール間の施工延長 40m 未満のものは2箇所。40m以上のものは3箇所。		
			幅	- 50					
			厚さ	- 30					
	1-2	管路掘削	深さ	(± 30)	○	○	マンホール間の施工延長 40m 未満のものは2箇所。40m以上のものは3箇所。		
			幅	- 30					
	1-3	管布設工 (開削工)	基準高 (D<1000mm)	(± 30)	○	○	(マンホールごとに測定。)		D:管内径
			基準高(D≥ 1000mm)	(± 50)					
			中心線の偏位 (水平方向)	(左右 50 以下)					
			延長	-L/500 か・200					
	1-4	現場打ち渠工	基準高	(± 30)	○	○	マンホール間の施工延長 40m 未満のものは2箇所。40m以上のものは3箇所。		※プレキャストボックスを使用する場合は、「基準高」と「延長」の項目で管理する。
			幅	- 30					
			厚さ	- 20					
			高さ	- 30					
			延長	-L/500 か・200					
	1-5	推進工	基準高	(± 50)	○	○	マンホールごとに測定。		D:管内径 ※は当該工法では高い精度を期待することが難しい難施工性の土質等の場合。
基準高			※ (± 100)						

※ () 書の規格値について：難施工の工事等により () の規格値によることが困難な場合は、監督員と協議し規格値の変更を行うことができる。

《 下水道編 》

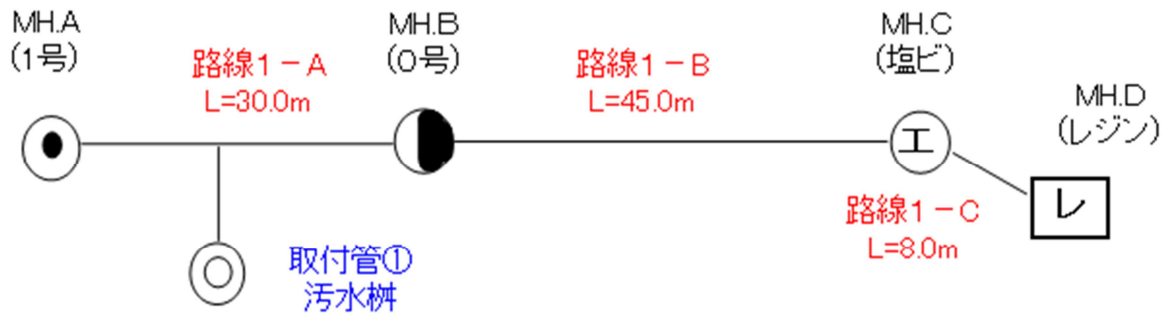
	番号	工 種	測 定 項 目	規 格 値(mm)	管理方法		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
					図表	図			
1 ・ 管 渠 工	1-6	シールド工	一次基礎高	(± 50)	○	○	マンホールごとに測定。 せん孔による測定は延長 100mに1箇所測定。		※は当該工法では高い精度を期待することが難しい難施工性の土質等の場合。 覆工厚は修正二次覆工計画に対する誤差とする。
			二次基礎高	※(± 100)					
			一次中心線の偏位 (水平方向)	(左右 200 以下)					
			覆工厚	(- 20)					
			延長	-L/500 かつ -200	○				
2 ・ マ ン ホ ー ル	2-1	マンホール	基準高	± 30	○	○	各マンホールごとに測定。		
			幅	- 30					
			高さ(深さ)	-					
			厚さ	- 20					
3 ・ ポ ン プ 場 ・ 終 末 処 理 場	3-1	池・槽の 主構造部	基準高	± 30		○	各構造部ごとに測定。		※は床版部分
			幅	± 30					
			高さ	± 30					
			長さ	± 50					
			厚さ t < 50cm	-20 ※-10					
			厚さ t ≥ 50cm	- 30					
	3-2	池・槽の 付属的構造部	基準高	± 20		○	各構造部ごとに測定。		ビット等寸法が 2m未満の構造部分で流出といい、 越流せきを除く。
			幅	± 20					
			高さ	± 20					
			厚さ	± 10					
			長さ	± 50					

※ () 書の規格値について：難施工の工事等により () の規格値によることが困難な場合は、監督員と協議し規格値の変更を行うことができる。

《 下水道編 》

《	番号	工 種	測 定 項 目	規格値(mm)	管理方法		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
					図表	図				
3 ・ ポ ン プ 場 ・ 終 末 処 理 場	3-3	開口部	幅又は長さ	± 20		○	各構造部ごとに測定。		永久開口箇所	
	3-4	ゲート用開口部 可動堰用開口部	基準高	+ 0 - 20		○	各構造部ごとに測定。			
			幅	+ 20 - 0						
			高さ	± 20						
	3-5	越流とい	基準高	± 20		○	各構造部ごとに測定。			
			幅	± 20						
			高さ	- 20						
			長さ	± 50						
	3-6	越流せき	基準高	± 20		○	各構造部ごとに測定。		流出といへの越流せきを除く一般のコンクリートせき等に適用。せき板（既製）使用の場合、基準高は±5mmとする。	
			幅	± 20						
			高さ	- 20						
			長さ	± 20						

写真管理表作成例



写真管理計画(状況)

(管路)

工種	測定箇所							留意事項
	路線番号	路線1-A		路線1-B		路線1-C		
	管理箇所	MH.A++4.0	MH.A+26.0	MH.B+4.0	MH.B+40.0	MH.C+2.0	MH.C+6.0	
	路線延長	30m		45m		8m		
補・単	単独		補助		補助			
管布設工	舗装版切断状況	○		○	○	○		※マンホール間の施工延長40m未満のものは1箇所。40m以上のものは2箇所。施工延長の短い場合については、担当者との協議。
	舗装版破砕・積込状況	○		○	○	○		
	機械掘削状況(1次掘削)	○		○	○	○		
	土留支保設置状況・完了	○		○	○	○		
	機械掘削状況(2次掘削)	○		○	○	○		
	掘削完了	○		○	○	○		
	基面整形状況・完了	○		○	○	○		
	基礎砂投入・転圧状況・完了	○		○	○	○		
	管布設状況・完了(中心線偏位)	○		○	○	○		
	管防護砂投入・転圧状況・完了	○		○	○	○		
	埋戻し状況・完了(20cm毎)	○		○	○	○		
	土留支保撤去状況・完了	○		○	○	○		
	下層路盤転圧状況・完了	○		○	○	○		
	上層路盤転圧状況・完了	○		○	○	○		
	仮復旧 乳剤散布状況・完了	○		○	○	○		
仮復旧 合材敷均し状況・完了	○		○	○	○			
仮復旧 合材転圧状況・完了	○		○	○	○			

写真管理計画(出来高)

(管路)

工種	測定箇所							留意事項
	路線番号	路線1-A		路線1-B		路線1-C		
	路線延長	30m		45m		8m		
	管理箇所	MH.A++4.0	MH.A+26.0	MH.B+4.0	MH.B+40.0	MH.C+2.0	MH.C+6.0	
補・単	補助		補助		補助			
管布設工	既設舗装幅・厚み検測	○	○	○	○	○	○	※マンホール間の施工延長40m未満のものは2箇所。40m以上のものは、3箇所。施工延長の短い場合は、担当者との協議。
	掘削深・幅検測	○	○	○	○	○	○	
	基礎幅・厚み検測	○	○	○	○	○	○	
	管保護砂幅・厚み検測	○	○	○	○	○	○	
	埋戻し完了検測(下がり)	○	○	○	○	○	○	
	下層路盤幅・深さ(下がり)検測	○	○	○	○	○	○	
上層路盤幅・深さ(下がり)検測	○	○	○	○	○	○		

写真管理計画(状況)

(マンホール)

工種	測定箇所					留意事項
	マンホール番号	MH. A (1号)	MH. B (0号)	MH. C (塩ビ)	MH. D (レジン)	
	写真管理箇所	(n/3+1)箇所 全工程	(n/3+1)箇所 全工程	(n/3+1)箇所 全工程	(n/3+1)箇所 全工程	
	補・単	補・単	補・単	補・単	補・単	
マンホール設置工	舗装版切断状況	○	○	○	○	※基礎検測及びMH高検測は全箇所とする。
	舗装版破碎・積込状況	○	○	○	○	
	機械掘削状況(1次掘削)	○	○	○	○	
	土留支保設置状況・完了	○	○	○	○	
	機械掘削状況(2次掘削)・完了	○	○	○	○	
	基面整形状況・完了	○	○	○	○	
	基礎砂・碎石投入・転圧状況・完了	○	○	○	○	
	底盤コンクリート設置状況・完了	○	○	○	○	
	マンホール組立設置状況・完了	○	○	○	○	
	マンホール蓋設置状況・完了	○	○	○	○	
	高さ調整モルタル打設状況・完了	○	○	○	○	
	目地詰め状況・完了	○	○	○	○	
	削孔状況・完了	○	○	○	○	
	インバート施工状況・完了	○	○	○	○	
	埋戻し(路床)状況・完了(巻出し20cm毎)	○	○	○	○	
	土留支保撤去状況・完了	○	○	○	○	
	下層路盤転圧状況・完了	○	○	○	○	
上層路盤転圧状況・完了	○	○	○	○		
仮復旧乳剤散布状況・完了	○	○	○	○		
仮復旧 合材敷均し転圧状況・完了	○	○	○	○		

写真管理計画(出来高)

(マンホール)

工種	測定箇所					留意事項
	マンホール番号	MH. A (1号)	MH. B (0号)	MH. C (塩ビ)	MH. D (レジン)	
	写真管理箇所	(n/3+1)箇所	(n/3+1)箇所	(n/3+1)箇所	(n/3+1)箇所	
	補・単	補・単	補・単	補・単	補・単	
マンホール設置工	掘削深・幅検測	○	○	○	○	※基礎検測及びMH高検測は全箇所とする。
	基礎(碎石・コンクリート)幅・厚み検測	○	○	○	○	
	基準高測定	○	○	○	○	
	埋戻し完了(路床)幅・深さ(下がり)検測	○	○	○	○	
	下層路盤幅・深さ(下がり)検測	○	○	○	○	
	上層路盤幅・深さ(下がり)検測	○	○	○	○	

※ 各マンホール数が3基未満の場合については、監督員と協議を行うこと。

写真管理計画(状況)

(汚水柵・取付管)

工種	測定箇所	留意事項	
	番号(宅地・家屋名)		取付管 ①
	管理箇所		(n/5+1)箇所 全工程
	補・単		補・単
柵・ 取付管 工	舗装版切断状況	○	必要に応じて
	舗装版破碎・積込状況	○	
	機械掘削状況(1次掘削)	○	
	土留支保設置状況・完了	○	
	機械掘削状況(2次掘削)	○	
	掘削完了	○	必要に応じて
	基面整形状況・完了	○	
	基礎砂投入・転圧状況・完了	○	
	管布設状況・完了	○	
	管防護砂投入・転圧状況・完了	○	
	埋戻状況・完了(20cm毎)	○	
	土留支保撤去状況・完了	○	
	下層路盤転圧状況・完了	○	
	上層路盤転圧状況・完了	○	
	仮復旧乳剤散布状況・完了	○	
仮復旧 合材敷均し状況・完了	○		
仮復旧 合材転圧状況・完了	○		

写真管理計画(出来高)

(汚水柵・取付管)

工種	測定箇所	留意事項	
	番号(宅地・家屋名)		取付管 ①
	管理箇所		(n/5+1)箇所 全工程
	補・単		補・単
柵・ 取付管 工	基礎幅・厚み検測	○	※配管、基礎、埋設シートについては全柵とする。
	配管延長検測	○	
	埋戻前巻出し厚さ検測	○	
	路床埋戻し完了・深さ(下がり)検測	○	
	埋設シート延長検測	○	
	下層路盤幅・深さ(下がり)検測	○	
	上層路盤幅・深さ(下がり)検測	○	